



住民自らの行動に結びつく
水害・土砂災害ハザード・リスク
情報共有プロジェクト

令和5年度の実施状況及び今後の予定

○国土交通省では、水害情報などの提供・伝達方法を充実させることを目的に、平成30年10月に「住民自らの行動に結びつく水害・土砂災害ハザード・リスク情報共有プロジェクト」を立ち上げ、同年12月にプロジェクトリポートをとりまとめた。

○プロジェクト参加団体

<マスメディア>

日本放送協会(NHK)、一般社団法人日本民間放送連盟
 一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟
 NPO法人気象キャスターネットワーク
 エフエム東京
 全国地方新聞社連合会
 一般財団法人道路交通情報通信システムセンター(VICS)

<ネットメディア>

LINE株式会社、Twitter Japan株式会社
 グーグル合同会社、ヤフー株式会社
 NTTドコモ株式会社、KDDI株式会社
 ソフトバンク株式会社

<行政関連団体>

一般財団法人マルチメディア振興センター(Lアラート)

<市町村関係者>

新潟県見附市

<地域の防災活動を支援する団体>

常総市防災士連絡協議会

<行政>

国土交通省水管理・国土保全局、道路局
 気象庁

情報を発信する行政、情報を伝えるマスメディア、ネットメディア関係者等が、互いの特性を活かした対応策、連携策を検討。主な論点を、右記課題1～課題3とし、33項目の取組がまとめられた。

○住民自らの行動に結びつける新たな6つの連携プロジェクト ～受け身の個人から行動する個人へ～

課題1 より分かりやすい情報提供のあり方は

A: 災害情報単純化プロジェクト ～災害情報の一元化・単純化による分かりやすさの追求～
 水害・土砂災害情報統合ポータルサイトの作成、情報の「ワンフレーズマルチキャスト」の推進、気象キャスター等との連携による災害情報用語・表現改善点検

課題2 住民に切迫感を伝えるために何ができるか

B: 災害情報我がことプロジェクト ～災害情報のローカライズの促進と個人カスタマイズ化の実現～
 地域防災コラボチャンネル(CATV×ローカルFM)、新聞からのハザードマップへの誘導、マイ・ページ機能の導入、テレビ、ラジオ、ネットメディア等が連携した「マイ・タイムライン」普及

C: 災害リアリティー伝達プロジェクト
 ～画像情報の活用や専門家からの情報発信など切迫感とリアリティーの追求～
 河川監視カメラ画像の積極的な配信、専門家による災害情報の解説、ETC2.0やデジタルサイネージ等を活用した道路利用者への情報提供の強化

D: 災害時の意識転換プロジェクト
 ～災害モードへの個々の意識を切り替えさせるトリガー情報の発信～
 住民自らの避難行動のためのトリガー情報の明確化、緊急速報メールの配信文例の統一化

課題3 情報弱者に水害・土砂災害情報を伝える方法とは

F: 地域コミュニティ避難促進プロジェクト
 ～地域コミュニティの防災力の強化と情報弱者へのアプローチ～
 登録型のプッシュ型メールシステムによる高齢者避難支援「逃げなきゃコール」の提供、「避難インフルエンサー(災害時避難行動リーダー)」への情報提供支援

上記課題を具体化させるために

※「ふるさとプッシュ」は「逃げなきゃコール」に名称変更となりました。

E: 災害情報メディア連携プロジェクト

～災害情報の入手を容易にするためのメディア連携の促進～
 テレビ・ラジオ・新聞からのネットへの誘導(二次元コード等)、ハッシュタグの共通使用、公式アカウントのSNSを活用した情報拡散

現時点における各取組状況および共有情報の位置付け等 一覧

項目	全体会議 (本省)	近畿地方 メディア連携	兵庫県 メディア連携	兵庫県域メディア連携協議会の取組案
A: 災害情報単純化プロジェクト				
①水害・土砂災害情報統合ポータルサイトの作成	●	●	同左	兵庫県域メディア連携協議会で情報共有を行い、兵庫県全域の住民へ周知 兵庫県域メディア連携協議会で情報共有を行い、兵庫県全域の住民へ周知 — ・簡素化した洪水予報文の見出し文を参考に、各メディアにおいて伝達。加えて、各メディアの特性に応じて補足情報を追加する。 ・観測所等の読み仮名リストを配布 行政関係者と報道関係者(記者、キャスター含む)の意見交換会(共同勉強会)などを実施し、メディア関係者と用語や表現内容の点検・改善を行う。 行政関係者と報道関係者(記者、キャスター含む)の意見交換会(共同勉強会)などを実施し、メディア関係者と用語や表現内容の点検・改善を行う。 —
②DIMAPSIによる災害ビッグデータを含む事前情報・被害情報の一元表示	●	●		
③一元的な情報伝達・共有のためのLアラート活用	●	—		
④「ワンフレーズ・マルチキャスト」の推進	●	●		
⑤災害情報(水害・土砂災害)用語・表現改善点検会議の実施	●	●		
⑥天気予報コーナー等での水害・土砂災害情報の平常時からの積極的解説	●	●		
⑦災害の切迫状況に応じたシームレスな情報提供	●	—		
B: 災害情報我がことプロジェクト				
⑧地域防災コラボチャンネルの普及促進	●	●	同左	より地域に密着した防災情報を住民に発信することを目的として、ケーブルテレビ事業者やコミュニティFM(ラジオ放送局)と連携し、防災情報コンテンツ等を検討・構築 一般向けに提供を開始した「水害リスクライン」の機能や得られる危険度情報の見方等について情報共有し、メディア関係者と意見交換会(共同勉強会)を行い兵庫県全域の住民(視聴者等)に周知 平常時及び洪水時のダム下流域におけるリスク情報をわかりやすく提供・周知 平常時及び洪水時のダム下流域におけるリスク情報をわかりやすく提供・周知 行政関係者と報道関係者(記者、キャスター含む)の意見交換会(共同勉強会)などを実施し、メディア関係者と用語や表現内容の点検・改善を行う。 兵庫県域メディア連携協議会で情報共有を行い、兵庫県全域の住民へ周知 — —
⑨水害リスクラインによる地先毎の危険度情報の提供	●	●		
⑩ダム下流部のリスク情報の共有	—	●		
⑪ダムの状況に関する分かりやすい情報提供	●	●		
⑫天気予報コーナー等での地域における災害情報の平常時からの積極的解説	●	●		
⑬テレビ、ラジオ、ネットメディア等と連携した「マイ・タイムライン」の普及促進	●	●		
⑭マイ・ページ～一人一人が必要とする情報の提供へ～	●	—		
⑮スマホアプリ等の活用促進に向けた災害情報コンテンツの連携強化	●	●	—	
C: 災害リアリティー伝達プロジェクト				
⑯河川監視カメラ画像の提供によるリアリティーのある災害情報の積極的な配信	—	●	同左	川の防災情報や水位情報、Youtubeコンテンツについて情報共有及び連携し、住民(視聴者)に周知 — メディア機関に事前に解説集を提供することによる専門家の受け入れ促進(今後の対応策)
⑰ETC2.0やデジタルサイネージ等を活用した道路利用者への情報提供の強化	●	—		
⑱水害・土砂災害情報を適切に伝えるため専門家による解説を充実	—	●		
D: 災害時の意識転換プロジェクト				
⑲住民自らの避難行動のためのトリガー情報の明確化	●	—	同左	— 警戒レベルや緊急速報メールの意味、配信タイミング等について、メディア関係者へ情報共有及び連携し、住民に周知 —
⑳緊急速報メールの重要性の住民への周知	—	●		
㉑緊急速報メールの配信文例の統一	●	—		
E: 災害情報メディア連携プロジェクト				
㉒新聞等の紙メディアとネットメディアの連携	—	●	同左	・メディア関係者と連携して、防災情報コンテンツ等の二次元コードを住民に拡散する ・メディア関係各社のHPIにて各種防災コンテンツにリンクを掲載 ・メディア関係者と連携して、防災情報コンテンツ等の二次元コードを住民に拡散する ・メディア関係各社のHPIにて各種防災コンテンツにリンクを掲載 ・メディア関係者と連携して、防災情報コンテンツ等の二次元コードを住民に拡散する ・メディア関係各社のHPIにて各種防災コンテンツにリンクを掲載 — 関係メディアによる公式アカウントのフォロワー登録および積極的なリポストにより、信頼性の高い災害情報をリアルタイムに提供 — 関係メディアによる公式アカウントのフォロワー登録および積極的なリポストにより、信頼性の高い災害情報をリアルタイムに提供 — 兵庫県域メディア連携協議会を開催し、より地域に沿った災害情報の発信及び地域コミュニティの防災力強化に向けた取り組みを実施 —
㉓テレビ等のブロードキャストメディアからネットメディアへの誘導	—	●		
㉔様々なメディアでの行政機関の災害情報サイトの活用	—	●		
㉕災害情報のSNSへの発信力の強化	●	—		
㉖行政機関によるSNS公式アカウントを通じた情報発信の強化	—	●		
㉗ハッシュタグの共通使用、公式アカウントのリンク掲載による情報拡散	●	—		
㉘SNS等での防災情報発信及びリツイート	—	●		
㉙災害の切迫状況に応じたシームレスな情報提供【再掲】	●	—		
㉚地方におけるメディア連携協議会の設置	—	●		
㉛水害・土砂災害情報のオープンデータ化の推進	●	—		
F: 地域コミュニティ避難促進プロジェクト				
㉜「避難インフルエンサー(災害時避難行動リーダー)」となる人づくり	●	●	同左	市町村が実施する地域の避難インフルエンサー(災害時避難行動リーダー)の育成を、行政関係機関、メディア関係者が連携し支援 行政関係機関、メディア関係者と情報共有及び連携し、住民の認知度を高め、利活用を促進する — —
㉝登録型のプッシュ型メールシステムによる高齢者避難支援「にげなきヤコール」	●	●		
㉞電話とAIを用いた災害時高齢者お助けテレフォンの開発	●	—		
㉟ETC2.0やデジタルサイネージ等を活用した道路利用者への情報提供の強化【再掲】	●	—		
㊱ETC2.0やデジタルサイネージ等を活用した道路利用者への情報提供の強化【再掲】	●	—		

取組番号：
6、12、
16、22



大雨伊丹の河川氾濫

12棟浸水 工事で川幅狭く決壊か

前線や低気圧の影響で兵庫県内は7日夜から8日朝にかけて、大雨に見舞われた。阪神間や神戸などで特に激



しく降り、伊丹市北部では武庫川水系天神川の堤防が長さ約30メートルにわたって決壊した。氾濫した水が住宅街に流れ込み、周辺で民家12棟が床上・床下浸水、車8台ほどが土砂に埋もれた。

(27面に関連記事)

伊丹市は8日午前、同市荒牧6など901世帯2088人に一時、避難指示を発令した。けが人は確認さ

天神川の堤防が決壊し、土砂に埋もれた車は8日午前、伊丹市荒牧6（撮影：吉田敦史）

NEXTに
動画
QRコード

れていない。県によると、天神川はまわりの土地より川底が高い「天井川」。県は川の下を通る市道トンネル工事のため、川の半分を高さ約2メートルの土のうで区切り、片側だけ水が流れるようにしていた。川幅は通常の半分ほどに狭まり、水量は大雨で一気に増加。土のうを越え、堤防を決壊させたとみられる。浸水面積は約3・3畝に及んだ。決壊した堤防はコンクリートをはがした状

態だったといい、県の担当者「この時期としては想定外の雨量だった」としている。

神戸地方気象台によると、8日午前2時40分までの12時間降水量は西宮市で1500・5ミリ、神戸市で1011ミリ。いずれも5月の観測史上最大だった。

芦屋市や西宮市の北部で倒木や土砂崩れがあり、西宮市の家屋1棟が一部損壊。8日未明に県内で最大約1530軒が停電した。

JR西日本は姫新線などの一部で始発から運転を見合わせ、神戸線もダイヤが乱れた。11線区約290本が運休や遅れるなどし、約5万3千人に影響した。

(上田勇紀、金慶順)

工事のために土のうが生まれ、川幅が狭くなっていた天神川。濁流は土のうを越えて決壊、住宅街を襲った＝8日午前、伊丹市荒牧

伊丹・天神川 想定超の大雨決壊30メートル 県、過去の雨量基に工事計画

大雨の影響で、8日未明に堤防が決壊した伊丹市北部の天神川。兵庫県は雨が多くなる出水期を避けて川の工事を進めていたが、5月としては想定を超える大雨が直撃する形に。近年は季節を問わず集中豪雨が増える傾向にあり、専門家は「出水期の定義を見直すことも検討すべきだ」と話す。

専門家「出水期の見直し検討を」

県によると、河川工事は下を通る市道トンネルの拡張に伴うもので、昨年11月に工事を開始。今年5月末までにいったん終える予定

区切り、右岸（下流に向か

って右側）だけ流れるようにした上で、左岸の堤防強化などを進めていた。このため川幅は通常の半分ほどになっており、短時間で水位が上昇。水は土のうを乗り越え、左岸堤防を30メートル越えて、左岸堤防は土のうを乗り越え、コンクリートをはがした状態だった。

県の過去5年間の11～5月の雨量を基に工事を計画したといい、担当者は「データを基に川幅などを確保していたが、雨量が想定を超えた」としている。

「普段はのどかな場所。まさかと思った」と話すのは、現場近くに住む上沢五

月さん(42)。就寝中だった8日午前1時半ごろ、近所の人らにインターホンを鳴らされて気づき、自宅上階に逃げた。車や玄関付近は泥にまみれ、後片付けに追われた。

神戸大都市安全研究センターの大石哲教授(水文



学)は「近年は暑い夏が長くなり、春や秋が短くなっている印象。20年ほど前まではなかったことで、気温が高くなれば大雨のリスクも高まる」と指摘。出水期の定義を見直すべきかどうか、検討の余地があるとする。

ただ、出水期を長く定義すると、工事期間が確保できないなどの懸念も。「出水期でなくても、工事のリスクや対策について行政は周辺住民にきちんと伝えたいといけない」と訴える。

(井川朋宏、金慶順、浮田志保)



流れ込んだ土砂に車が埋まった天神川の決壊現場付近。8日午後、伊丹市荒牧6(撮影・吉田敦史)

台風7号

香美町、県内初「緊急安全確保」

水位急上昇 網渡りの判断

兵庫県内を縦断した台風7号では、香美町が県内で初めて避難情報「緊急安全確保」を発令した。2年前の災害対策基本法改正で新設された5段階最高レベルの危機に直面。河川の水位上昇は「経験したことがないほど急だった」とし、全域にレベル4の「避難指示」を出してわずか45分後の網渡りの判断だった。(22面に関連記事)



一夜明けて、台風の爪痕があらわになった香美町内。16日午後、兵庫県香美町村岡区和田(撮影・長谷部崇)

NEXTに動画
QRコード

避難指示から45分、移動困難に

警戒レベルと避難情報

警戒レベル	避難情報の名称	状況	住民が取るべき行動
5	緊急安全確保	災害発生または切迫	命の危険ただちに安全確保
＜警戒レベル4までに必ず避難！＞			
4	避難指示	災害の恐れが高い	危険な場所から全員避難
3	高齢者等避難	災害の恐れあり	危険な場所から高齢者や障害者は避難

※レベル2、1は省略

同町香住区では、15日午前4時過ぎまでの1時間で降水量64・0ミリの記録。同3時15分に大雨・暴風警報、同5時半過ぎに洪水警報が相次いで発表された。夜明けからも断続的に雨が降り、同11時40分、県と神戸地方気象台は同町と養父市を対象に「土砂災害警戒情報」を発表。市町村が決定する避難情報のレベル4「避難指示」に相当し、同町は発令を検討したが、即断はしなかった。正午前後の1時間降水量は5ミ程度に落ち着き、河川水位も

あまり上がっておらず、町は「深刻な状況ではなかった」とする。しかし、台風が県内を縦断し始めると、状況は急激に悪化する。同町村岡区を流れる矢田川で水位が上がると、町は災害対策本部会議を経て、土砂災害警戒情報から1時間50分後の午後1時半、川沿いの兎塚地区(513世帯1310人)に避難指示。他の地域にはレベル3「高齢者等避難」を出した。

午後2時半過ぎ、村岡区和田の民家3世帯で、土砂の流入やブロック塀の崩落が判明。その約10分後、避難指示を町全域の6369世帯1万5858人に広げた。全世帯に設置した受信機や屋外のスピーカー110カ所で防災行政無線が鳴り響く。全員が危険な場所から避難する必要があった。

同2時に水位2・63メートルの矢田川(同町香住区)は、1時間余りで4・40メートルまで急上昇し、氾濫危険水位(4・1メートル)を超えた。国道9号をはじめ、主要道路は雨量規制や土砂崩れ、冠水などで通行止めが相次ぐ。

町は「避難所などへの移動が困難になった」として同3時半、屋内の高所や頑丈な建物に退避が必要なら下ろした。同川の水位は同4時に5・74メートルまで達し、避難者は34世帯91人になった。町内では27棟で床上浸水があったが人が出ず、町の担当者は「高齢者が多く土砂降りでの屋外避難が難しく、自宅の2階に避難するなど安全な行動をとったか下ろした。」(井川朋宏)

円山川改修まだ10年必要

今夏も家屋浸水、住民の不安続く

兵庫県内で26人が犠牲となった2004年の台風23号災害は20日、発生から19年になる。決壊し、流域に甚大な被害をもたらした但馬の円山川は堤防の復旧が進んだ一方で、今なお大規模な整備が続く。今夏の台風では家屋が浸水した地域もあり、住民の不安は尽きない。工事に時間を要しているのはなぜか。現場を歩いた。

(網嶋葉名)



2年前に完成した堤防で円山川を眺める高階正夫さん。台風23号の時は自宅の1階が浸水。「2階まで水に浸かるのを覚悟するくらいすさまじかった」＝豊岡市日高町宵田

JR山陰線の江原駅に近い豊岡市日高町の宵田地区を訪ねた。

河岸堤防求め続け

2年前にようやく

「やっとここまでできた」。住民の高階正夫さん(73)は感慨深げに話す。これまでなかった円山川の堤防が2年前、ようやく完成した。

同川沿いにある同地区は19年前の台風23号で家屋の8割が床上浸水した。道路も冠水し、深さが1メートル以上。いったん近くの体育館に身を寄せた高階さんは自宅に残った両親が心配になり、道路を泳いで自宅に帰ったという。

堤防がないため、それ以降も台風や大雨のたびに不安は募った。高階さんは同地区など6地区でつくる「日高町地区円山川上流直轄河川改修促進期成同盟会」の会長を今春まで務め、早期の堤防完成

を求めてきた。「正直慣れてしまった部分もある」としつつ、「やっぱり堤防ができると安心。(集落より下流の)築堤工事もあと少しなので早く完成を」と期待する。

集落囲む堤未完成

土のうで応急処置

一方、整備が計画されながら進まない地域も。宵田地区のすぐ北側、鶴岡地区では、集落を取り囲む「輪中堤」を築く予定だが、まだできていない。土地取得などで住民との調整が必要なためだ。現在は土のうを積んで対応している



集落を囲む「輪中堤」の建設が予定される地区。臨時措置として土のうを積んだ壁ができています＝豊岡市日高町鶴岡



保水力を高めるために遊水池の整備が進む円山川沿岸＝豊岡市中郷

円山川と台風23号 円山川は豊岡、養父、朝来の3市を流れ、流域面積は約1300平方キロ。大屋川や八木川、出石川などの支流を合わせると約68キロの流路延長を持つ。川沿いは盆地で集落も多い。2004年の台風23号では、支流の濁流が押し寄せた円山川本流と出石川が決壊。豊岡市内で死者7人、負傷者51人、浸水面積4083畝、浸水家屋7944戸の被害が出た。

が、今年8月の台風7号では、家屋が3軒浸水する被害が出た。同地区の区長、出田博一さん(60)は「台風や大雨のたびに川の水位が上がり、堤

防がないのは怖い。輪中堤はもちろん、他の箇所でも堤防の整備を早く進めてほしい」と訴える。少し下流へ下り、豊岡市中郷地区へ。かつて市民の憩いの場であった円山川運動公園は移転し、その跡地で重機がうなりを上げていた。42畝の土地を約2・5〜3倍掘り下げて遊水池を造る計画。円山川の水量が増えた際に水をため、川の水位を下げる目的だが、掘削の進捗率は28% (21年)という。

軟弱地盤も長期化の一因に

台風23号を受け、国土交が盛り込まれた。記者が訪る。

通省や兵庫県は決壊した円山川の復旧を急いだ。橋の区、鶴岡地区などもその対象だ。同川はもともと勾配が緩やかで泥性の土砂が堆積しやすかったため、流域の地盤も緩い。同省豊岡河川国道事務所は「堤防を高く盛ると、重

化については「これくらいは通常の範囲内」としつつ、沈下を観測しながらの慎重な工事になると説明。計画全体の完成は33年ごろ

計画では、台風23号と同規模の台風でも被害を抑えることができるよう、これまで堤防がなかった地区での必要ケースのほか、流域地盤の特性も理由に挙げ

AR技術を使った浸水体験のイメージ画像。目の前の風景が水につかったように見える (AR防災提供)



浸水、煙・消火、地震の3種類

2020年10月に発足した同法人は、防災訓練や催しを行う自治体や学校などに機器を貸し出したり、販売したりして、新たな訓練の普及を図る。大阪市消防局や横浜市、福岡市など導入した自治体は約200に上り、企業からの問い合わせも増えているという。

水害や火災、地震を想定した防災訓練に、拡張現実 (AR) や仮想現実 (VR) の技術を取り入れる動きが広がっている。アプリを搭載した機器を使えば、視覚や音で災害を疑似体験しながら身を守るすべを覚えられる。取り組みを進める一般社団法人「AR防災」(東京都) は「リアルさを追求した訓練を通じ、災害を『わがごとく』と捉えてほしい」と呼びかける。(上田勇紀)

拡張現実で災害を疑似体験

冠水や煙充満、訓練にリアルさ / 200自治体導入、企業も注目



ARやVR技術による防災訓練の可能性を語るAR防災の板宮晶大代表理事＝大阪市内

提供するのは浸水体験、煙・消火体験、地震体験の3種類。浸水と煙・消火では、その場の風景に重ねて水や煙が出現したように見えるAR技術を使う。参加者はゴーグルやタブレットなどを通じて、台風や豪雨で辺り一面が水につかった状況や、火災で煙が充満した様子を疑似体験し、避難や消火方法を学ぶ。仮想の映像を使うVR技術による地震体験では、地震でどのような物が倒れ、危険が迫ってくるのかを理解する。緊急地震速報の報知音に合わせ、震度6強の地震が発生した想定で、教室の机や机が倒れる様子や、台所の食器棚から皿が落ちてくる状況が映し出される。

晶大さんの原点は、1995年1月17日の阪神・淡路大震災にあるという。震災は28年前、東京都小平市に住む高校1年のときに起こった。テレビで映し出される神戸・阪神地域の被災状況に「自分にもできることがある」と一念発起。3月末からおよそ1週間、避難所になった西宮市の大社小学校で、炊き出しや支援物資を選別するボランティア活動に当たった。

「避難者に『ありがとう』と

地震で机や机が倒れる教室のVR映像の一場面 (AR防災提供)



言われたことが今も心に残っている。自分で動き出すことの大切さを学んだと晶大さん。「震災を知らない世代にも、想像しやすい方法で備えを伝えていきたい」と話している。

防災にデジタル技術活用の動き

官民連携で協議会 神戸市や伊丹市参加

防災にデジタル技術を活用しようとする動きは近年、官民連携で進んでいる。2019年6月には、全国の自治体やIT企業、研究機関などが集まり、「AI防災協議会」(東京都)が発足。兵庫県内からも自治体会員として神戸市と伊丹市が参加し、人工知能(AI)や交流サイト(SNS)を生かして被害軽減につなげようと研究を重ねる。

同協議会で分科会主査を務める東宏樹さん(40)によると、デジタル技術の発展により、市民が安全な避難経路や避難所の混雑具合、河川の状況などをリアルタイムで把握できるようになる。「デジタルが市民の命を守り、減災につなが

ると可能性を語る。協議会と神戸市が連携し、無料通信アプリ「LINE(ライン)」を活用した実証実験も実施。災害時にまわりの写真や状況を投稿してもらい、共有する取り組みで、同市危機管理室は「市が災害状況を把握したり、投稿を見て『自分も気をつけよう』と備えの意識を高めてもらったりするのに役立てたい」としている。

ただ、デジタル技術を積極的に防災に取り入れようとする自治体はまだ一部にとどまるという。東さんは「『デジタル防災』は過渡期にある。実験を重ね、災害時に役立つ実感を広げていきたい」と話す。



ゴーグルを装着し、火災による煙・消火体験をする子ども＝2022年7月、東京都千代田区 (AR防災提供)

◆多角的な視点から災害に備えるシリーズです。第3月曜日に掲載。次回は9月18日の予定です。

ひょうご 防災新聞 プラス SHEET 0257

「ともに備える」

10 ひょうご地域防災サポート隊

DISASTER FILE V

元行政プロ集団 災害の備え伝授

兵庫県庁の土木・建築・農林部署の元技術職員らでつくるNPO法人「ひょうご地域防災サポート隊」（兵庫県太子町）が、豊富な行政経験を生かした出前講座や訓練を続けている。災害に備え、家族や地域で何を準備しておくべきか。「命を守る自助と共助の大切さを広めたい」との思いを胸に、各地で対策のきっかけづくりに励む。

（上田勇紀）

県の土木・建築・農林元技術職員ら

10月上旬、神戸市中央区の県職員会館で開いた定例会。近い将来の発生が懸念される南海トラフ巨大地震への備えなどを議題に、メンバーが活発に意見を交わした。

主に県内の自治体や自主防災組織から依頼を受け、避難所運営や地区防災計画の作り方を伝授する。行政職員向けには水害

に備えた土のう作りを教えるなど、その地域に沿った内容を重視している。

「まずは住んでいる地域のハザードマップを開いてもらい、どこが危険なのか考えてもらわなければ」。糟谷昌俊理事長（65）
 〓神戸市西区〓は力を込める。

◇ 発足メンバーの1人、寺田良

県職員らに土のうの積み方などを伝えた研修会＝南あわじ市内（ひょうご地域防災サポート隊提供）



地域に合う防災計画作り支援／自助、共助実現へ講演や訓練

幸さん（78）〓同市灘区〓は1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災で被災した。あの朝、同市灘区弓木町の自宅マンションで揺れに襲われた。妻は本棚の下敷きになり、大学2年と中学3年の娘もけがをした。家族を連れて外へ出ると、向かいの文化住宅は倒壊。隣では一軒家がつぶれ、顔見知りの男性が生き埋めになっていた。

助け出そうとしたが、何も道具がない。時間がたつうちにガスのおいが充満し、やむなく近くの中学校へ避難した。

男性は後に無事に救助された。「でも、あのとき何もできなかった。後悔の思いが消えなかった」と寺田さん。2005年に県を定年退職し、翌年、仲間とサポート隊を設立。自らの経験を交え、講演に臨む。

◇ 当初10人だったメンバーは現在、29人まで増えた。力を入れ

るのは、行政が発信する防災情報をかみ砕いて市民に伝えること。昨年8月には「防災 避難行動の手引き」という小冊子を作り、県内市町などに配った。

「防災の知識を持ち、地域で備える意識を広めていきたい」と糟谷理事長。手引きのダウンロードや講演依頼はサポート隊のホームページ（<https://support-taijors.jp>）から。

「自分が被災者に」イメージ湧かず

「ひょうご」地域防災サポート隊が「共助」とともに大切だとして伝え続ける「自助」。命を守るための自分や家族の取り組みを指す。2023年版防災白書によると、自助の意識は11年の東日本大震災後に高まったものの、その後は伸び悩む。次々と起こる災害を報道で見聞きしても、多くの人は自分が被災者となるイメージを得られていないようだ。

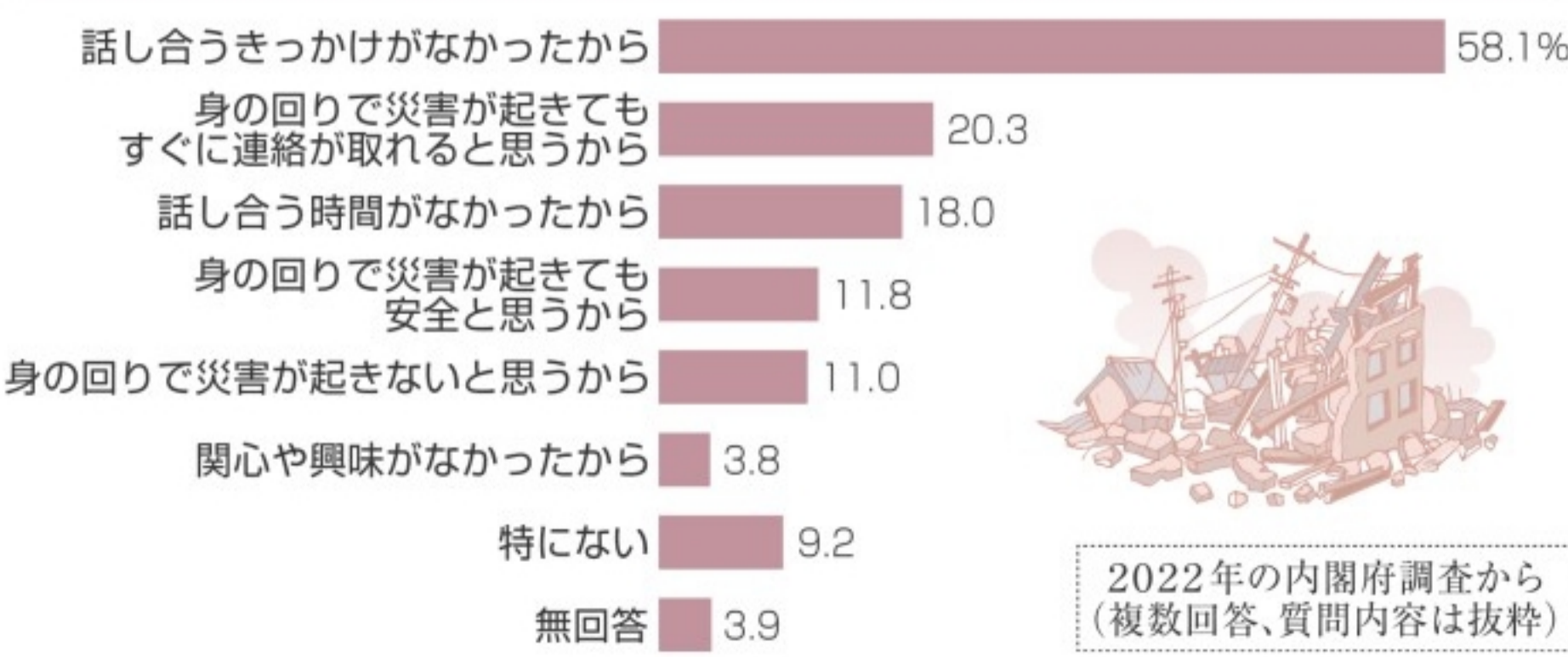
◇ 昨年9月の内閣府調査で「自然災害への対処などを家族や身近な人と話し合ったことがない理由」と答えた人に複数回答で理由を聞いたところ、「きっかけがなかったから」が6割近くを占め、ほかの選択肢を引き離した。白書は「自然災害のリスクを認識しているものの、着手の一歩を踏み出せない層が一定程度ある」と分析する。



打ち合わせに臨む「ひょうご」地域防災サポート隊のメンバー
 〓神戸市中央区下山手通4

家具の固定や避難経路・場所の確認、非常食の準備など、すぐにも取り組める自助。そして、周囲と助け合う共助。阪神・淡路大震災の発生から間もなく29年。もう一度、足元から見つめ直す作業が求められる。

自然災害への対処などを家族や身近な人と話し合ったことがない理由



南あわじ市職員や小中学校教員に向けて開いた避難所運営の訓練＝南あわじ市内（同隊提供）

◆多角的な視点から災害に備えるシリーズです。次回は12月18日の予定です。

防災気象情報の改善

主な取組の紹介

線状降水帯の予測向上等に向けた取り組み

神戸地方気象台

線状降水帯の予測精度向上等に向けた取組

線状降水帯の予測精度向上を前倒して推進し、予測精度向上を踏まえた情報の提供を早期に実現するため、水蒸気観測等の強化、気象庁スーパーコンピュータの強化や「富岳」を活用した予測技術の開発等を早急に進めています。

観測の強化

- 陸上観測の強化
- 気象衛星観測の強化
- 局地的大雨の監視の強化
- 洋上観測の強化

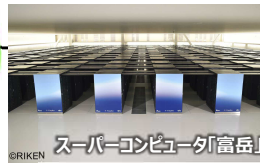


次期ひまわり (令和10年度めどに打上げ)



予測の強化

- 高度化した局地アンサンブル予報等の数値予報モデルによる予測精度向上等を早期に実現するためのスーパーコンピュータシステムの整備
- 線状降水帯の機構解明のための、梅雨期の集中観測、関連実験設備（風洞）の強化
- 「富岳」を活用した予測技術開発



情報の改善



※具体的な情報発信のあり方や避難計画等への活用方法について、情報の精度を踏まえつつ有識者等の意見を踏まえ検討

線状降水帯の予測精度向上等に向けた取組

気象庁ホームページに線状降水帯の事例を掲載

(https://www.data.jma.go.jp/senjo_list/list_senjokousuitai.html)

- ・「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準を満たした事例について、10分ごと、1次細分区域ごとに、気象庁ホームページに掲載しています。
- ・このページはリアルタイムで自動更新し、1年間掲載。検出日時及び府県予報区でソートが可能。

最終更新時刻 2023年10月27日 9時 0分		
日時(JST)	府県予報区	一次細分区域
2023年 9月 21日 23時 30分	奈良県	南部
	和歌山県	北部
10分	奈良県	南部
	和歌山県	北部
0分	奈良県	南部
	和歌山県	北部
22時 50分	奈良県	南部
	和歌山県	北部
40分	奈良県	南部
	和歌山県	北部
30分	奈良県	南部
	和歌山県	北部
20分	奈良県	南部
	和歌山県	北部
10分	奈良県	南部
	和歌山県	北部
0分	奈良県	南部
	和歌山県	北部
21時 50分	奈良県	南部
	和歌山県	北部

猪名川河川事務所

災害から命を守るため、普段から対策を！

尼崎市ボランティアネットワーク連絡会研修会で講習

～猪名川河川事務所 河川レンジャー活動～

- 日時 令和 5年8月19日(土) 10時00分～12時00分
- 場所 尼崎市 ボランティアセンター (尼社協 ほっと館2階ホール)
- 対象者 尼崎市災害ボランティアネットワーク連絡会 24名
- 内容 尼崎市(猪名川・藻川・武庫川)の洪水マイ・タイムラインの作成講習会

○過去の水害を学び、自分の住所とハザードマップから各自のマイ・タイムラインを作成する。

参加 無料

尼崎市災害ボランティアネットワーク連絡会研修会

「マイ・タイムライン」

災害から命を守るために、いつ、何をするか、また、普段から気しておくべき対策を「マイ・タイムライン」を通して一緒に学びませんか。

日時: **8/19(土) 10時から**

場所: **尼社協ほっと館 2階ホール**
(南武庫之荘3丁目24-5)

対象: 尼崎市災害ボランティアネットワーク連絡会 会員所属団体のメンバー等 30名程度

持参物: 筆記用具

お住まいの地域のハザードマップ

尼崎市災害ボランティアネットワーク連絡会事務局
(尼崎市社会福祉協議会ボランティアグループ)

〒661-0033 尼崎市南武庫之荘3丁目24-5
電話 06-4950-8963 (平日9:00～17:30)
FAX 06-4950-8913
E-mail amavc@dream.ocn.jp



過去の水害について学習



「マイ避難カード」に自分の情報を整理する

尼崎市 武庫川ハザードマップ

自分の住所から猪名川・武庫川どちらの河川氾濫で避難するか確認する!

尼崎市 猪名川ハザードマップ

尼崎市は平野なので、土砂災害より、津波・高潮に警戒が必要!



尼崎市 ボランティアセンター (尼社協 ほっと館 2階ホール)

マイ避難カード

災害の種類	洪水	名前	猪名川 花子	情報の入手方法
判断材料の入手	避難場所(住所)がどこか? 自宅の浸水履歴は5m(2階まで)までか?	〇〇さんの家	〇〇さんの家	尼崎市ハザードマップ 〇〇さんのハザードマップ(文庫)
逃げるとき	逃げるときは、どこへ逃げますか?	〇〇小学校	〇〇小学校	〇〇さんのハザードマップ(文庫)
避難する方法	避難する方法(逃げるとき)は?	一人ですべて避難	一人ですべて避難	

『マイ・タイムライン』をつくってみよう!! 猪名川河川事務所版

自分の住所、してから「自分の住所」するまでの災害を、いつかおぼえたい、書いてみよう!

みんなが考えた「自分の住所」してから「自分の住所」するまでの災害が「マイ・タイムライン」だよ!

市区町村 地区 家 マイタイムライン 作成日付 年月日

マイ・タイムラインの作成

自分の住所、してから「自分の住所」するまでの災害を、いつかおぼえたい、書いてみよう!

みんなが考えた「自分の住所」してから「自分の住所」するまでの災害が「マイ・タイムライン」だよ!

【講習会アンケート 講習会の感想】

- 台風や過去の水害など身近に感じられるよう話していただいて良かった。
- いろんな情報を知ることができて、とても勉強になりました。また、いろんな人を知ってほしいです。災害時の避難を家族でしっかり考えたいと思いました。
- 知らないことが非常に多いことに気が付きました。マイ避難カードは簡易で良いと思いました。
- 講師の方の知識が豊富で、話も上手で、あっという間に時間が経ちました。
- とても興味深いテーマだったので、楽しく勉強させて頂きました。マイ避難カード、マイ・タイムラインで文字に起こすことで、何を準備するべきなのか整理できますし、見直していきたいと思いました。
- 大変有意義な時間でした。まわりの方々に広めていきたいと思います。

【問い合わせ先】国土交通省 近畿地方整備局 猪名川河川事務所 工務課
〒563-0027 大阪府池田市上池田2-2-39 TEL 072-751-1111 (代)



命を守る避難行動 正しく学び、正しく恐れ、正しく備える！

マイ・タイムライン講習会 尼崎市東園田6丁目地区

～猪名川河川事務所 河川レンジャー活動～

- 日 時 令和 5年10月15日(日) 10時00分～11時30分
- 場 所 尼崎市立 東園田町総合会館 3階ホール
- 参加者 東園田6丁目地区 住民16名
- 内 容 マイ・タイムライン(我が家の洪水避難プラン)作成講習会

尼崎市東園田6丁目地区の主催で、志築河川レンジャーがマイ・タイムライン(我が家の洪水避難プラン)作成講習会を実施しました。猪名川や藻川が氾濫した場合のシミュレーション映像や、他の河川の実際の洪水被害などを通して洪水の危険性を説明していただき、避難方法や日常の備えの重要性などを伝えて頂きました。

東園田町6丁目地区のみなさま

防災講座 水害は他人事と思いませんか？
自分の命、大切な人の命を守るために！

マイ・タイムライン
(我が家の洪水避難プラン)

作成講習会開催のご案内

昭和13年の阪神大水害の時、猪名川では島の内地区をはじめ多くの地域が浸水したことは知りませんでした。

どのような行動が必要なのか事前に決めておきたいけど、わからない・・・

地域から「逃げ遅れゼロ」を目指すために、水害に対する知識・知恵を共有する防災講座を行います。

2023年 **10/15(日)**
10:00～11:30

東園田町総合会館 3階ホール

■防災講座の内容(約2時間程度・休憩あり)

- マイ・タイムラインを知る。
- 猪名川の水害を知る。
- マイ・避難カードを作成する。
- マイ・タイムラインを作成する。

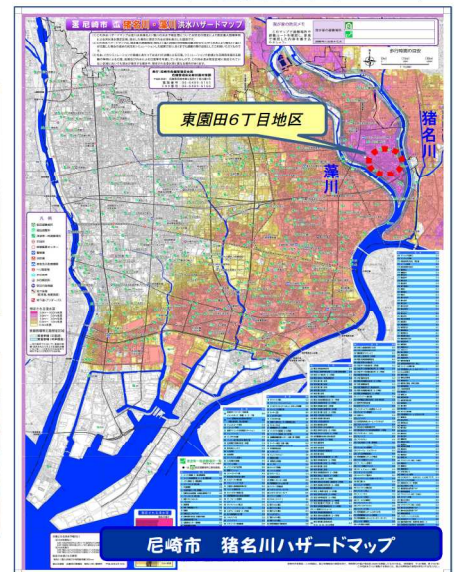
＜主催＞東園田町会 6丁目地区
(後援)猪名川河川事務所・尼崎市
＜問い合わせ先＞06-6493-7166 大谷



過去の水害・災害について学習



志築河川レンジャーからの説明状況



尼崎市 東園田町総合会館 (3階ホール)



マイ避難カード

災害の種類	洪水	名前	猪名川 花子	情報の入手方法
判断材料の入手	猪名川河川事務所(住所) 猪名川河川事務所(住所)			猪名川河川事務所ハザードマップ 猪名川ハザードマップ(住所) 猪名川河川事務所(住所) 猪名川河川事務所(住所)
逃げるとき	自宅の浸水深は5m(2階まで浸水) →自然は水が引かない			
避難する方法	猪名川河川事務所(住所) 猪名川河川事務所(住所)			
避難する場所	猪名川河川事務所(住所) 猪名川河川事務所(住所)			

マイ避難カードの作成

マイ・タイムライン作成支援ツール「マイ避難カード」に自分の情報を整理する。

『マイ・タイムライン』をつくってみよう！ 猪名川河川事務所版

猪名川河川事務所(住所) 猪名川河川事務所(住所)

マイ・タイムラインの作成

猪名川河川事務所(住所) 猪名川河川事務所(住所)

【マイ・タイムラインの作成講習】

作成講習では作成方法の動画を見ていただき、家庭に帰ってから、各家庭・各自の実情に合った「マイ避難カード」や「マイタイムライン」を作成出来るように作成支援ツールを説明しました。

最後に「正しく学び」「正しく恐れ」「正しく備える」ことを参加者の皆さんにお伝えして、講演会の締めくくりとなりました。

参加した地域の皆さんからは、「とても勉強になった」「家に帰って作成したい」等の多くの声をいただきました。

【問い合わせ先】国土交通省 近畿地方整備局 猪名川河川事務所 工務課
〒563-0027 大阪府池田市上池田2-2-39 TEL 072-751-1111 (代)



大阪教育大学附属池田小学校と連携した防災教育の支援 ～猪名川における災害、自然再生、防災・減災の出前授業～ ～猪名川河川事務所～

大阪教育大学附属池田小学校の理科「流れる水のはたらきと土地の変化」の授業と連携し、事務所の職員から、猪名川の過去の災害、自然再生や水生生物調査、防災・減災対策についての取り組みを紹介しました。

<出前授業概要>

実施日：令和5年11月10日（金）
 実施時間：13時50分～15時25分
 実施場所：大阪教育大学附属池田小学校
 参加人数：5年生 児童（約100名）
 実施内容：①過去の災害について
 ②猪名川の自然再生の取り組み
 ③防災・減災対策について



■防災対策

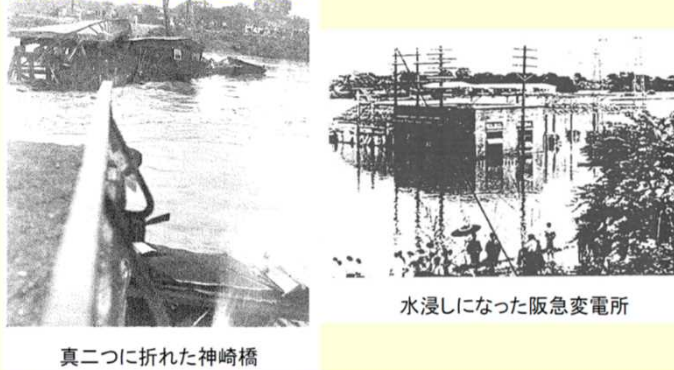
猪名川マイ・タイムラインをつくってみよう！

「自然の力」を活かして「自然の回復」するまでにはまだ... みんなが考えた「自然の力」を活かして「自然の回復」するまでにはまだ「マイ・タイムライン」だよ！

市区町村 地区 家 マイ・タイムライン

■阪神大水害時の被害状況

昭和13年7月秋雨前線による出水



■河川環境 猪名川の水環境

・水生生物調査（猪名川の愛護セミナー）

池田床園下流
桑津橋
令和5年7月22日（土）
参加人数：合計160名（子供95名、保護者他75名）

（児童からの質問）

- Q 昔から堤防はあったのですか。
 A 堤防がないところや河幅が狭いところがありました。
 Q 堤防の復旧には、どのくらい時間がかかるのですか。
 A 応急的な対策は速やかに行い、次の出水期迄に堤防の復旧を目指します。
 Q 水質はどうしてきれいになったのですか。
 A 下水道施設の整備により大幅に改善されました。

【問い合わせ先】 国土交通省 近畿地方整備局 猪名川河川事務所 工務課
 〒563-0027 大阪府池田市上池田2-2-39 TEL 072-751-1111（代）



災害対策用機械の紹介、 操作説明・訓練を実施しました

R5. 5. 29

猪名川河川事務所
兵庫国道事務所

猪名川河川事務所及び兵庫国道事務所が保有する災害対策用機械を事務所職員及び地方自治体に紹介すると共に、操作説明・訓練を実施しました。

- | | |
|---|---|
| <p>◆日時: 令和5年5月29日(月) 11:00~12:00</p> <p>◆場所: 大阪府池田市桃園地先(猪名川運動公園付近)
対策本部車、照明車、排水ポンプ車の紹介
照明車2機種3台の操作説明・訓練
排水ポンプ車の操作説明・訓練</p> <p>◆参加者: 12名【猪名川河川事務所】
10名【兵庫国道事務所】
1名【地方自治体(西宮市)】</p> | <p>◆内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害対策用機械による災害復旧活動支援についての概要説明 ・対策本部車(拡幅型、バス型)の説明 ・照明車(ポール式1台、ブーム式2台)の操作説明、訓練 ・排水ポンプ車(30m³/min 1台)の操作説明、訓練 |
|---|---|

実施状況



星原副所長挨拶



対策本部車内での説明



照明車(ブーム式)操作訓練



排水ポンプ車操作訓練操作説明

- ◆参加者からの感想
- ・国土交通省では、災害時に役立つ機械を保有しているんだ(若手事務所職員)
 - ・実際に照明車の操作できてよかった。“思ったより操作が簡単”(事務所職員)
 - ・災害が発生した時の参考になります。(地方自治体参加者)

【問い合わせ先】 国土交通省 近畿地方整備局 猪名川河川事務所 工務課
〒563-0027 大阪府池田市上池田2-2-39 TEL 072-751-1111(代表)



大規模災害に備えた、 操作説明・操作訓練を実施しました

R5. 5. 29

猪名川河川事務所
兵庫国道事務所

猪名川河川事務所及び兵庫国道事務所では、大規模災害時における災害対策用機械の操作要員確保に向けた取り組みとして、災害協定に基づく兵庫県建設業協会及び大阪府域協定企業からの要員派遣を想定し、災害対策用機械の操作説明・操作訓練を実施しました。

- | | |
|---|--|
| <p>◆日時: 令和5年5月29日(月) 13:15~16:00</p> <p>◆場所: 大阪府池田市桃園地先(猪名川運動公園付近)
対策本部車2台の説明
照明車2機種3台の操作説明・訓練
排水ポンプ車の操作説明・訓練</p> <p>◆参加者: 15名【兵庫県建設業協会(尼崎・西宮支部)9社】
5名【大阪府域協定企業2社】
13名【災害対策用機械操作業務受注者2社】
7名【猪名川河川事務所・兵庫国道事務所】</p> | <p>◆内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害対策用機械による災害復旧活動支援についての概要説明 ・災害対策用機械の概要説明 ・対策本部車(拡幅型、バス型)の説明 ・照明車(ポール式1台、ブーム式2台)の操作説明、訓練 ・排水ポンプ車(30m³/min 1台)の操作説明、訓練 |
|---|--|

実施状況



菊田事務所長挨拶



照明車操作訓練



照明車(ポール式)操作訓練



照明車(ブーム式)操作訓練



対策本部車操作訓練



排水ポンプ車操作訓練



排水ポンプ車操作訓練



排水ポンプ車操作訓練

◆参加者からの感想

- ・災害時に協力できるように勉強させて頂きました。
- ・操作できてよかった。
- ・災害時に活動するためには、このような訓練の経験が必要ですね。
- ・機会があれば、今後も参加させて頂きます。

【問い合わせ先】

国土交通省 近畿地方整備局 猪名川河川事務所 工務課
〒563-0027

大阪府池田市上池田2丁目2番39号 TEL 072-754-1111(代表)

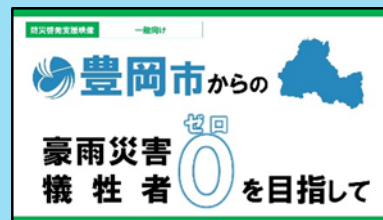


豊岡河川国道事務所

⑬ 防災教育教材、防災啓発資料の作成

平成29年度から義務教育生徒向けから大人向けの啓発資料を作成し、全ての年代の防災力向上を図る。

令和5年度作成中(幼・保～小学生低学年、小学生中学年～中学生、一般向け動画での防災啓発支援資料)



令和4年度作成(一般・防災リーダー向け防災啓発支援資料)

「避難情報とそのときの行動」編	「マイ避難カード」編	「防災情報収集」編
「防災マップ」編	「土砂災害を知る」編	「避難支援」編

等

令和3年度作成
(幼稚園・保育園向け学習教材)

平成29年度～令和元年度作成
(小学生向け学習教材)

令和2年度作成
(中学生向け学習教材)

授業テーマとねらい	
テーマ1	「洪水について理解する」
テーマ2	「雨の恵みについて知る」
テーマ3	「家族や先生の言うことを良く聞く」

学齢	授業テーマ
低学年	テーマ1 雨の恵みと災い 自分の命は自分で守る 1, 2年生
	テーマ2
中学年	テーマ1 洪水災害とその対策 自然との共生 3, 4年生
	テーマ2
高学年	テーマ1 洪水災害にどのように対応するか ～避難方法を知る～ 5, 6年生
	テーマ2 わたしたちができること ～助けられる側から助ける側へ～

授業テーマとねらい	
テーマ1 学ぶ力を身に付ける	「避難できない人間の心理を理解する」
テーマ2 考える力を身に付ける	「水害時の具体的な避難行動を考える」
テーマ3 貢献する力を身に付ける	「水害犠牲者を出さないためにできることを考える」

「写真やイラストを多用した教材」

テーマ0 分散避難の考え方を知る	「新型コロナウイルスが蔓延するなかでの避難を考える」	21
---------------------	----------------------------	----

②⑥ 住民自らが考え実践する防災活動報告会の開催

平成25年度より、一般住民を対象とした防災学習会を開催。令和2年度からは、SNSを併用した開催方法を採用し、流域を越えた防災啓発情報を発信。

『YouTube配信の予定』

今年度も防災学習会では、ライブ配信と1ヶ月間の見逃し配信を実施し、より多くの地域住民が防災学習会を視聴できる内容としています。

- ・配信期間：11月11日(土)～12月11日(月)
- ・総視聴回数：11月11日(土)より
<https://toyooka.bousaiseminar.jp>



『防災の取り組み事例の発表』



防災食・非常食の調理
 (熊本県人吉市
 ひまわり亭にて)

豊岡市高校生ボランティア
 つながり隊



引き渡し訓練



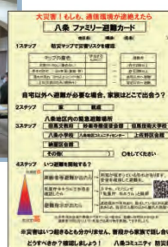
豊岡市立港中学校



▲定期的に開催されている
 防災ワークショップ

八条ファミリー避難カード

八条コミュニティ
 (地域コミュニティ)



『各発表への講評』



東京大学大学院 情報学環
 特任教授
 片田 敏孝 先生

『参加者の感想』(R4年度)

- ・行政以外の取り組みを知ることができ、とても良かった。
- ・防災学習会が継続して毎年開催されていることに敬意を表します。防災意識の向上が感じられます。

姫路河川国道事務所

○水害リスクマップ及び多段階の浸水想定図

- 従来の水害ハザードマップに加えて、浸水範囲と浸水頻度の関係をわかりやすく図示した「水害リスクマップ(浸水頻度図)」を新たに整備し、水害リスク情報の充実を図り、防災・減災のための土地利用等を促進しています。
- 国交省ホームページでは、全国の水害リスクマップをご覧いただけます。

国土交通省

水管理・国土保全

水害リスクマップ一覽

水害リスクマップ及び多段階の浸水想定図

国や都道府県では、これまで、水防法に基づき住民等の迅速かつ円滑な避難に資する水害リスク情報として、想定最大規模降雨を対象とした「洪水浸水想定区域図」を作成し公表してきました。国土交通省では、これに加えて、土地利用や住まい方の工夫の検討及び水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討など、流域治水の取組を推進することを目的として、発生頻度が高い降雨規模の場合に想定される浸水範囲や浸水深を明らかにするため、「多段階の浸水想定図」及び「水害リスクマップ」を作成・公表することとしました。なお、現在の多段階の浸水想定図及び水害リスクマップは、国管理河川の氾濫のみを示しております。

水害リスクマップ及び多段階の浸水想定図一覽

注：-:浸水が発生していないことを示します。

開発局 ・地方整備局	水系	水害リスクマップ (浸水頻度図)			多段階の浸水想定図						事務所等HP	
		浸水深 0.0m以上 (浸水あり)	浸水深 0.5m以上 (床上浸水 相当)	浸水深 3.0m以上 (一階居室 浸水相当)	降雨規模							
					1/10	1/30	1/50	1/100	1/150	1/200		
近畿	淀川水系(猪名川)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	猪名川河川事務所
近畿	加古川水系	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	姫路河川国道事務所
近畿	揖保川水系	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	姫路河川国道事務所
近畿	円山川水系	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	豊岡河川国道事務所

<国交省HPで公開中！>

↓スマートフォン・PCからアクセス↓



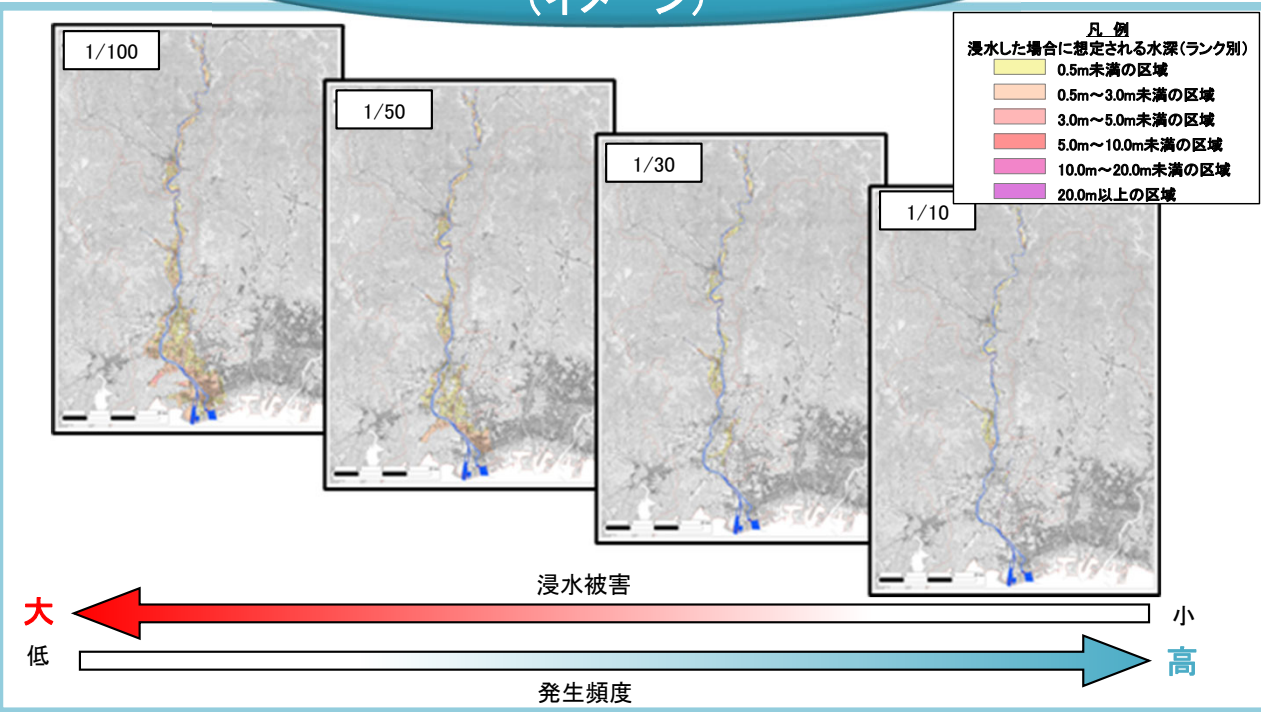
https://www.mlit.go.jp/river/kasen/ryuiki_pro/risk_map.html

猪名川、加古川、揖保川、円山川の水害リスクマップ

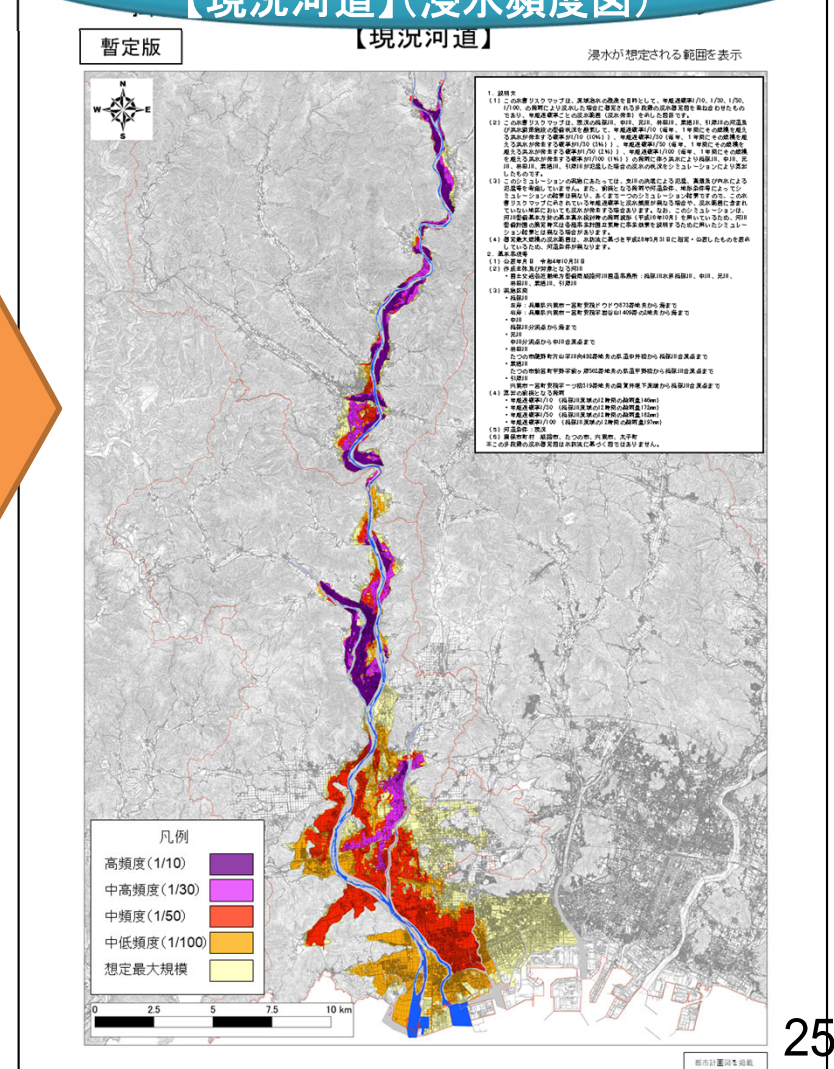
○水害リスク情報の充実（水害リスクマップの概要）

- 従来の水害ハザードマップに加えて、浸水範囲と浸水頻度の関係をわかりやすく図示した「水害リスクマップ（浸水頻度図）」を新たに整備し、水害リスク情報の充実を図り、防災・減災のための土地利用等を促進。
- 姫路河川国道事務所ホームページでも公開中。

多段階の浸水想定区域図
(イメージ)



揖保川水系 水害リスクマップ
【現況河道】(浸水頻度図)



<姫路河川国道事務所HPで公開中！>

↓スマートフォン・PCからアクセス↓



<https://www.kkr.mli.t.go.jp/himeji/torikumi/river/database/riskmap/index.html>

国土交通省近畿地方整備局
姫路河川国道事務所

サイトマップ | このサイトについて | Q&A | お問い合わせ

事務所概要 | 事務所の取り組み | 記者発表 | 各種委員会等 | 活動報告

ホーム > 事務所の取り組み > 加古川・揖保川 > 多段階の浸水想定図・水害リスクマップ

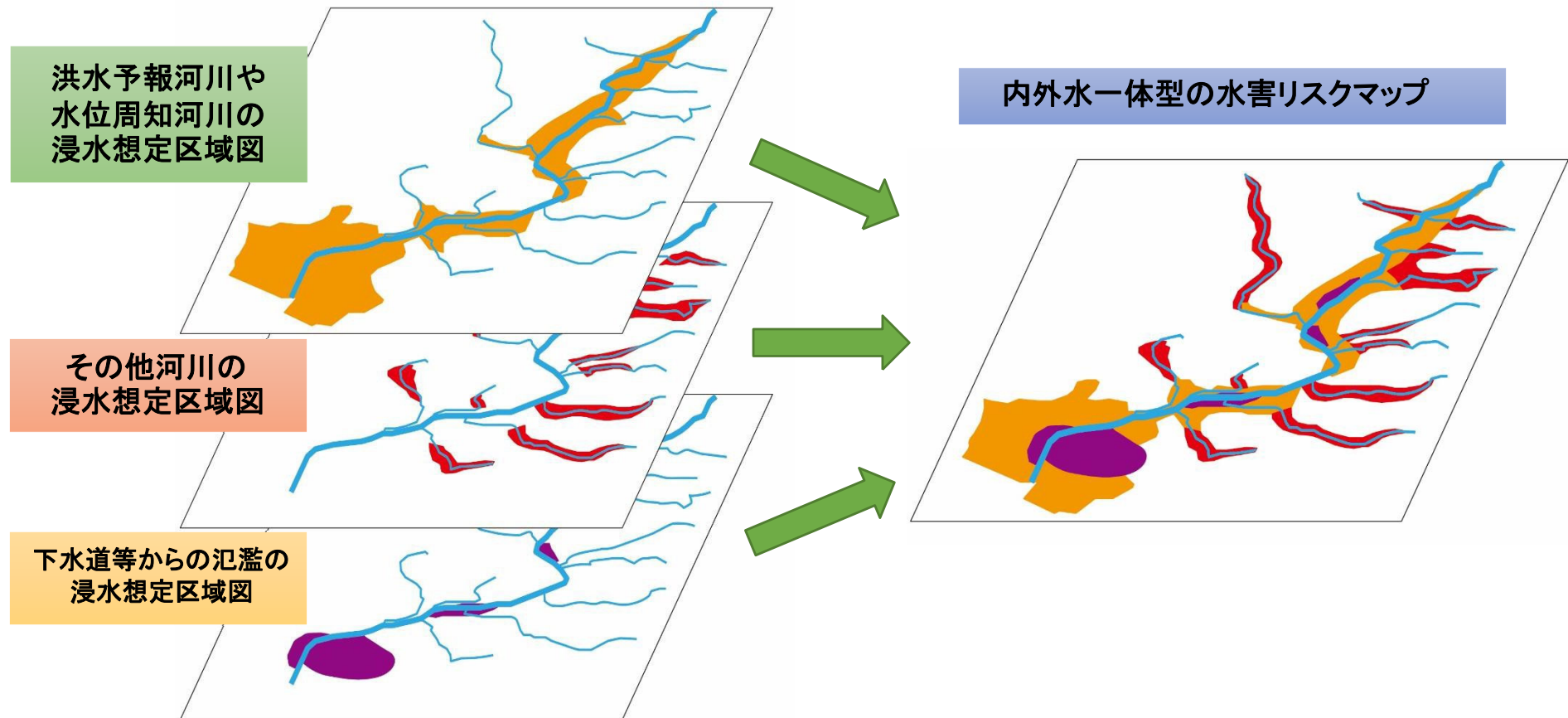
多段階の浸水想定図・水害リスクマップ

- 加古川水系 多段階の浸水想定図・水害リスクマップ
- 揖保川水系 多段階の浸水想定図・水害リスクマップ

○内外水一体型の水害リスクマップについて

- 洪水予報河川や水位周知河川のみならず、その他河川や下水道等からの氾濫を明らかとすることで、水害リスク情報の空白地の解消が重要。
- 現在管理者別に作成・提供されている浸水ハザード情報図について、洪水予報河川や水位周知河川の氾濫、その他河川の氾濫(外水氾濫)、下水道等からの氾濫(内水氾濫)を重ね合わせて表示。

内外水一体型の水害リスクマップ作成



内外水一体型の水害リスクマップ(概念図)

- 揖保川の畳堤は、眺望への配慮など住民の意見が反映された特殊堤です。住民の防災意識の高さが結実した貴重な現役の土木遺産として、令和4年度土木学会選奨土木遺産に選定されました。
- 土木遺産選定にあたり、畳堤の概要や効果を説明する看板を設置予定です。

揖保川畳堤



出典：土木学会選奨土木遺産HP

たつの市営駐車場(下川原)及びその前の堤防の計2箇所に看板を設置予定



たつの市営
駐車場
(下川原)

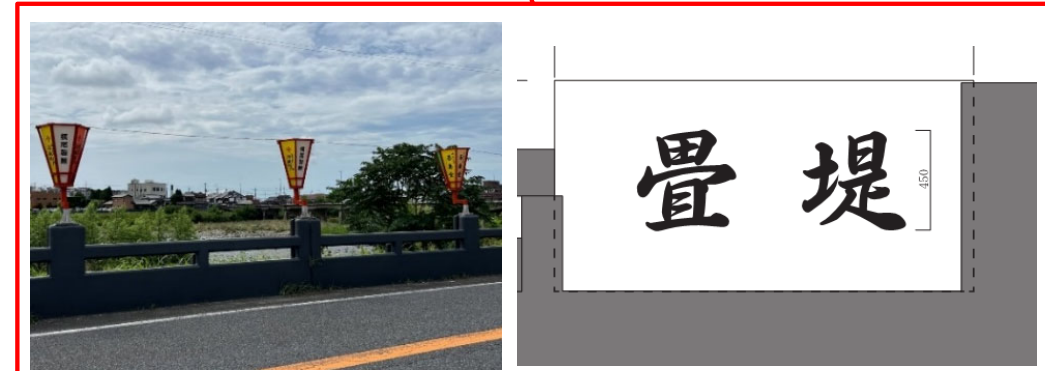
揖保川

看板①設置予定箇所



※既存の看板(建造物群保存地区)の隣に畳堤紹介看板を設置

看板②設置予定箇所



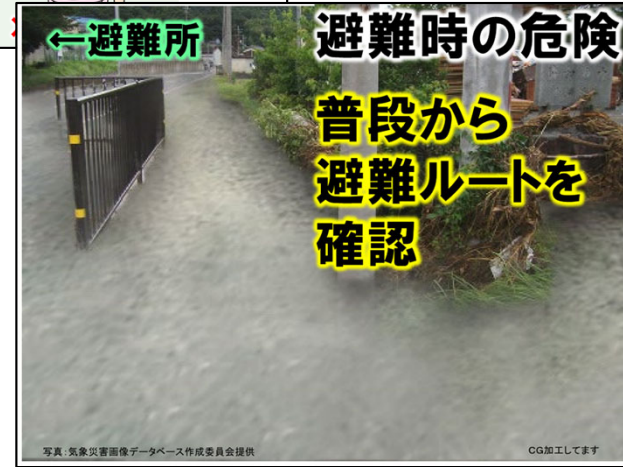
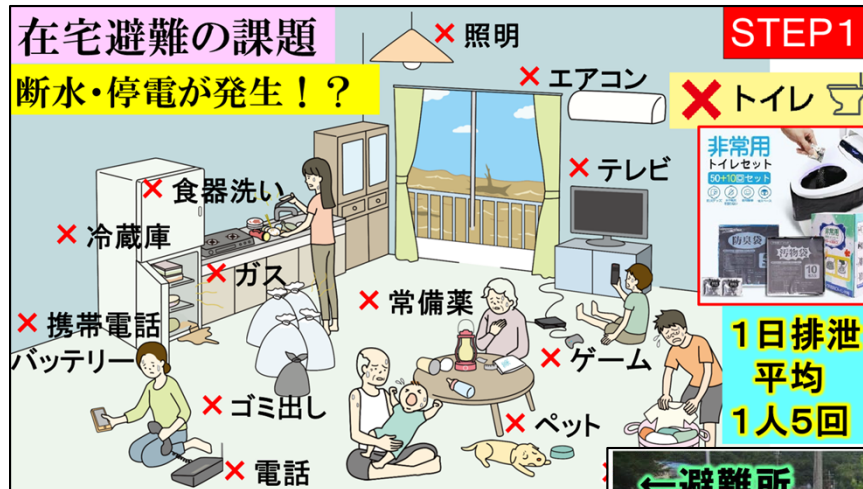
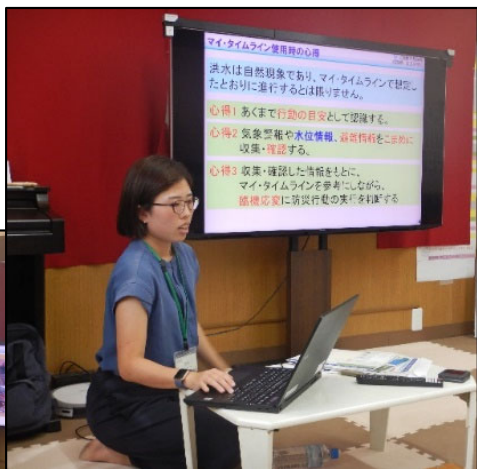
※畳パネルにシートを貼り付け。看板①から見える大きさ27

○加東市の子供たちとマイ・タイムラインを作成するワークショップを開催

○洪水発生時に、行動のチェックリストや避難判断のサポートツールとして活用することで、「逃げ遅れゼロ」の効果期待できる「マイ・タイムライン」のワークショップを開催しました。

- 日 時：令和5年8月7日（月） 14：00～15：00
- 場 所：イオン社店 2F 放課後デイサービスふらっぷ
- 参加者：18人

○実施状況



子供たちの感想

- ・少し難しかったけど、やらないといけないことをまとめることができた。
- ・家に帰ったら、お父さんとお母さんに教えてあげたいです。

【マイ・タイムラインとは】

マイ・タイムラインとは住民一人ひとりのタイムライン（防災行動計画）であり、台風等の接近による大雨によって河川の水位が上昇する時に、自分自身がとる標準的な防災行動を時系列的に整理し、自ら考え命を守る避難行動のための一助とするものです。

その検討過程では、市区町村が作成・公表した洪水ハザードマップを用いて、自らの様々な洪水リスクを知り、どの様な避難行動が必要か、また、どういうタイミングで避難することが良いのかを自ら考え、さらには、家族と一緒に日常的に考えるものです。

19 姫路市 浸水歩行体験

○「姫路市総合防災訓練・国民保護訓練及び防災フェア」における浸水歩行体験

- 姫路市では、実践的な訓練により災害に強い安全、安心なまちづくりを目指し、10月1日に「姫路市総合防災訓練・国民保護訓練及び防災フェア」を開催しました。
- 本防災フェアにおいて、姫路河川国道事務所は姫路市と協力し、姫路市民に浸水歩行体験を実施しました。

- 実施日：令和5年10月1日（日） 10:00～15:00
- 開催場所：姫路市大手前公園、JR姫路駅周辺、白鷺小中学校、姫路港
- 主催：姫路市
- 参加機関：国・県・市防災関係機関・消防団・医療機関・協定関係・ライフライン関係・地区連合自主防災会

○浸水歩行体験



○避難時の注意点について説明



約200名の方にご参加いただき、浸水歩行体験を通して水害の危険性や避難時の注意点をお伝えしました。

19 加古川市 浸水歩行体験

〇「加古川市総合防災訓練」における浸水歩行体験

- 〇 加古川市では、大規模地震の発生を想定し、正しい知識を身につけ、いつ起こるかわからない自然災害に備えるための、「加古川市 総合防災訓練」を開催しました。
- 〇 本訓練において、姫路河川国道事務所は加古川市と協力し、加古川市民に浸水歩行体験を実施しました。

- 〇実施日：令和5年11月5日（日） 9:30～11:30
- 〇開催場所：加古川市役所庁舎前広場
- 〇主催：加古川市
- 〇参加機関：国・県・市、気象台、町内会・自主防災組織、自衛隊、警察署、大阪ガス、関西電力、教育委員会、BAN - BANネットワークス、コープこうべ等

〇浸水歩行体験



〇避難時の注意点について説明



約100名の方にご参加いただき、浸水歩行体験を通して水害の危険性や避難時の注意点をお伝えしました。

19 姫路市立余部小学校 体験型防災学習

○姫路市立余部小学校にて体験型防災学習を実施

- 7月4日姫路市立余部小学校の授業の一環で、姫路市危機管理室及び姫路市消防局と合同で体験型防災学習を実施しました。
- 当事務所からは、災害対策本部車の乗車体験、照明車の操作体験、そして揖保川のマイクロモデル(模型)を用いて平常時から洪水時、そして破堤時に浸水がどのように広がるのか、余部小学校付近の浸水被害の状況を見童と一緒に確認しました。

○日 時：令和5年7月4日(火)
10:30~12:00

○場 所：姫路市立余部小学校

○参加機関：姫路市立余部小学校 3、4年生 94名
姫路河川国道事務所 調査課、防災課
姫路市危機管理室
姫路市消防局

○体験授業の前に避難について学習



水防教室で学んだ感想

- ・ マイクロモデルを用いた学習では、「ここが破堤したら余部小学校や自分の家が浸水する～!!」との声がたくさんあり、浸水エリアや破堤リスクを実際に目で見ながら理解してもらうことができました。
- ・ 「災害対策車はこんなに広いのか!」、「照明車の照明はとても眩しい!」といった感想もありました。

○災害対策車と照明車の説明



○マイクロモデルで浸水リスク確認



○段ボールベッドづくり体験 (姫路市)



○消防車の説明 (姫路市)



兵庫県域メディア連携協議会の 取組実施状況と今後の予定

兵庫県域メディア連携協議会の取組実施状況と今後の予定①

課題1 より分かりやすい情報提供のあり方は

A:災害情報単純化プロジェクト

平常時	災害時	取組項目	兵庫県域メディア連携協議会の取組方針	取組実施状況 ①完了 ②完了(毎年継続) ③未実施	今後の対応案
○		①水害・土砂災害情報統合ポータルサイトの作成	○兵庫県域メディア連携協議会で情報共有を行い、兵庫県全域の住民へ周知	②完了 (毎年継続)	各機関のポータルサイト等、最新情報をメディア機関を通して住民に継続周知
○		②DiMAPSによる災害ビッグデータを含む事前情報・被害情報の一元表示	○兵庫県域メディア連携協議会で情報共有を行い、兵庫県全域の住民へ周知	②完了 (毎年継続)	DiMAPSについてメディア機関を通して住民に周知
○		③一元的な情報伝達・共有のためのLアラート活用	—	—	—
○		④「ワンフレーズ・マルチキャスト」の推進	○簡素化した洪水予報文の見出し文を参考に、各メディアにおいて伝達。加えて、各メディアの特性に応じて補足情報を追加する。	②完了 (毎年継続)	意見交換による課題解消
			○観測所等の読み仮名リストを配布	①完了	報道に役立つ地先名、橋梁名等を整理した読み仮名リストや、撮影場所案等をメディア機関に配布
○		⑤災害情報（水害・土砂災害）用語・表現改善点検会議の実施	○行政関係者と報道関係者（記者、キャスター含む）の意見交換会（共同勉強会）などを実施し、メディア関係者と用語や表現内容の点検・改善を行う。	②完了 (毎年継続)	・メディア機関との用語改善点検会議開催 ・意見交換による課題解消
○		⑥天気予報コーナー等での水害・土砂災害情報の平常時からの積極的解説	○行政関係者と報道関係者（記者、キャスター含む）の意見交換会（共同勉強会）などを実施し、メディア関係者と用語や表現内容の点検・改善を行う。	②完了 (毎年継続)	・メディア機関との意見交換会開催 ・メディア機関が利用できる解説材料（マイ・タイムライン等の国交省事業等をまとめた資料）を作成・配布
○	○	⑦災害の切迫状況に応じたシームレスな情報提供	—	—	—

「課題1 より分かりやすい情報提供のあり方」に向けた取組状況と今後の予定

- ✓ 取組方針を概ね完了。引き続き、**各種取組を通じた分かりやすい情報提供を継続実施**する。
- ✓ 協議会の枠組みを利用した行政機関とメディア機関の**意見交換会等により、今後も引き続き課題解消を目指す。**

兵庫県域メディア連携協議会の取組実施状況と今後の予定②

課題2 住民に切迫感を伝えるために何ができるか

B:災害情報我がごとプロジェクト

平常時	災害時	取組項目	兵庫県域メディア連携協議会の取組方針	取組実施状況 ①完了 ②完了(毎年継続) ③未実施	今後の対応案
○		⑧地域防災コラボチャンネルの普及促進	○より地域に密着した防災情報を住民に発信することを目的として、ケーブルテレビ事業者やコミュニティFM（ラジオ放送局）と連携し、防災情報コンテンツ等を検討・構築	②完了 (毎年継続)	各メディア機関との防災情報配信の連携
○	○	⑨水害リスクラインによる地先毎の危険度情報の提供	○一般向けに提供を開始した「水害リスクライン」の機能や得られる危険度情報の見方等について情報共有し、メディア関係者と意見交換会（共同勉強会）を行い兵庫県全域の住民（視聴者等）に周知	②完了 (毎年継続)	メディア機関を通して地先毎の危険度情報を住民に継続周知
○	○	⑩ダム下流部のリスク情報の共有	○平常時及び洪水時のダム下流域におけるリスク情報をわかりやすく提供・周知	③未実施	メディア機関を通してダム下流部のリスク情報を住民に継続周知
○	○	⑪ダムの状況に関する分かりやすい情報提供	○平常時及び洪水時のダム下流域におけるリスク情報をわかりやすく提供・周知	③未実施	報道に役立つ分かりやすいダム放流通知文をメディア機関に配布
○		⑫天気予報コーナー等での地域における災害情報の平常時からの積極的解説	○行政関係者と報道関係者（記者、キャスター含む）の意見交換会（共同勉強会）などを実施し、メディア関係者と用語や表現内容の点検・改善を行う。	②完了 (毎年継続)	・メディア機関が利用できる解説材料（マイ・タイムライン等の国交省事業等をまとめた資料）を作成・配布 ・意見交換による課題解消
○		⑬テレビ、ラジオ、ネットメディア等と連携した「マイ・タイムライン」の普及促進	○兵庫県域メディア連携協議会で情報共有を行い、兵庫県全域の住民へ周知	②完了 (毎年継続)	メディア機関を通して「マイ・タイムライン」を住民に継続周知
	○	⑭マイ・ページ～一人一人が必要とする情報の提供～	—	—	—
	○	⑮スマホアプリ等の活用促進に向けた災害情報コンテンツの連携強化	—	②完了 (毎年継続)	メディア機関のSNSやWEBサイトでのスマホ版の防災情報サイト集へのリンク

「課題2 住民に切迫感を伝えるために何ができるか」に向けた取組状況と今後の予定①

- ✓ 取組方針を概ね完了。引き続き、住民に我がごとと感じてもらい取組を継続実施する。
- ✓ 今後、ダムに関する情報提供等の取組も含め、意見交換等による課題解消を図りながら取組を実施する。

兵庫県域メディア連携協議会の取組実施状況と今後の予定③

課題2 住民に切迫感を伝えるために何ができるか

C: 災害リアリティー伝達プロジェクト

平常時	災害時	取組項目	兵庫県域メディア連携協議会の取組方針	取組実施状況 ①完了 ②完了(毎年継続) ③未実施	今後の対応案
	○	⑯河川監視カメラ画像の提供によるリアリティーのある災害情報の積極的な配信	○川の防災情報や水位情報、Youtubeコンテンツについて情報共有及び連携し、住民（視聴者）に周知	②完了 (毎年継続)	メディア機関のSNSやWEBサイトでのYouTube公式アカウント「国土交通省近畿地方整備局水災害予報センター」へのリンク
	○	⑰ETC2.0やデジタルサイネージ等を活用した道路利用者への情報提供の強化	—	—	—
	○	⑱水害・土砂災害情報を適切に伝えるため専門家による解説を充実	—	③未実施	専門家が解説する内容の要旨をまとめた解説集をメディア機関に事前に提供しておき、専門分野の情報提供をわかりやすくかつスムーズに実施できるようにする。

D: 災害時の意識転換プロジェクト

平常時	災害時	取組項目	兵庫県域メディア連携協議会の取組方針	取組実施状況 ①完了 ②完了(毎年継続) ③未実施	今後の対応案
	○	⑲住民自らの避難行動のためのトリガー情報の明確化	—	—	—
	○	⑳緊急速報メールの重要性の住民への周知	○警戒レベルや緊急速報メールの意味、配信タイミング等について、メディア関係者へ情報共有及び連携し住民に周知	③未実施	メディア機関を通して緊急速報メールの重要性を住民に継続周知
	○	㉑緊急速報メールの配信文例の統一	—	—	—

「課題2 住民に切迫感を伝えるために何ができるか」に向けた取組状況と今後の予定②

- ✓ 取組方針に対して、実施状況が**未実施の取組が多い**。
- ✓ **専門家による解説の充実**や、**緊急速報メール等の重要性周知**等を進め、切迫感ある伝え方に向けた取組を強化する。

兵庫県域メディア連携協議会の取組実施状況と今後の予定④

課題3 情報弱者に水害・土砂災害情報を伝える方法とは

E:災害情報メディア連携プロジェクト

平常時	災害時	取組項目	兵庫県域メディア連携協議会の取組方針	取組実施状況 ①完了 ②完了(毎年継続) ③未実施	今後の対応案
○		②新聞等の紙メディアとネットメディアの連携	○メディア関係者と連携して、防災情報コンテンツ等の二次元コードを住民に拡散する ○メディア関係各社のHPにて各種防災コンテンツにリンクを掲載	②完了(毎年継続) ②完了(毎年継続)	メディア連携会議を活用した情報共有と取組項目の連携実施
○		③テレビ等のブロードキャストメディアからネットメディアへの誘導	○メディア関係者と連携して、防災情報コンテンツ等の二次元コードを住民に拡散する ○メディア関係各社のHPにて各種防災コンテンツにリンクを掲載	②完了(毎年継続) ②完了(毎年継続)	災害時に、災害情報サイトへリンクする二次元コードをテレビ画面に掲載
○		④様々なメディアでの行政機関の災害情報サイトの活用	○メディア関係者と連携して、防災情報コンテンツ等の二次元コードを住民に拡散する ○メディア関係各社のHPにて各種防災コンテンツにリンクを掲載	②完了(毎年継続) ②完了(毎年継続)	災害報道にて、行政機関の災害情報サイトを活用してもらう
○		⑤災害情報のSNSへの発信力の強化	-	-	-
○		⑥行政機関によるSNS公式アカウントを通じた情報発信の強化	○関係メディアによる公式アカウントのフォロワー登録および積極的なリポストにより、信頼性の高い災害情報をリアルタイムに提供	②完了(毎年継続)	メディア機関のSNSを活用した行政機関の発信する防災情報のリポスト
○		⑦ハッシュタグの共通使用、公式アカウントのリンク掲載による情報拡散	-	-	-
○	○	⑨災害の切迫状況に応じたシームレスな情報提供 【再掲】	-	-	-
○	○	⑧SNS等での防災情報発信及びリツイート	○関係メディアによる公式アカウントのフォロワー登録および積極的なリポストにより、信頼性の高い災害情報をリアルタイムに提供	②完了(毎年継続)	メディア機関のSNSを活用した国土交通省から発信の防災情報のリポスト
○		⑩地方におけるメディア連携協議会の設置	○兵庫県域メディア連携協議会を開催し、より地域に沿った災害情報の発信及び地域コミュニティの防災力強化に向けた取り組みを実施	①完了	メディア連携会議の継続的な開催と情報共有
○		⑪水害・土砂災害情報のオープンデータ化の推進	-	-	-

「課題3 情報弱者に水害・土砂災害情報を伝える方法とは」に向けた取組状況と今後の予定①

- ✓ 取組方針を概ね完了。引き続き、**住民全員に水害・土砂災害情報を伝える取組を継続実施**する。
- ✓ **SNSの相互フォロー、リポスト等**を通じて、**情報発信の強化**を進める。

兵庫県域メディア連携協議会の取組実施状況と今後の予定⑤

課題3 情報弱者に水害・土砂災害情報を伝える方法とは

F: 地域コミュニティ避難促進プロジェクト

平常時 災害時	取組項目	兵庫県域メディア連携協議会の 取組方針	取組実施状況 ①完了 ②完了(毎年継続) ③未実施	今後の対応案
○	③②「避難インフルエンサー（災害時避難行動リーダー）」となる人づくり	○市町村が実施する地域の避難インフルエンサー（災害時避難行動リーダー）の育成を、行政関係機関、メディア関係者が連携し支援	②完了 (毎年継続)	メディア機関と連携した「避難インフルエンサー（災害時避難行動リーダー）」づくりの意見交換
○	③③登録型のプッシュ型メールシステムによる高齢者避難支援「にげなきゃコール」	○行政関係機関、メディア関係者と情報共有及び連携し、住民の認知度を高め、利活用を促進する	③未実施	・メディア機関と連携した「逃げなきゃコール」キャンペーンの実施 ・メディア機関を通して「逃げなきゃコール」を住民に継続周知
○	③④電話とAIを用いた災害時高齢者お助けテレフォンの開発	—	—	—
○	③⑤ETC2.0やデジタルサイネージ等を活用した道路利用者への情報提供の強化【再掲】	—	—	—

「課題3 情報弱者に水害・土砂災害情報を伝える方法とは」に向けた取組状況と今後の予定②

- ✓ 地域の避難インフルエンサーの育成を継続中。今後も継続する。
- ✓ 「逃げなきゃコール」について情報の周知を行い、住民の認知度を高めて利活用を促進する。